
ミニマム・サタン

柚子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミニمام・サタン

【コード】

N1641BA

【作者名】

柚子

【あらすじ】

わたくしは、アルマーテ・ディファ・ブリュッセル。

魔界きつての美女ですわ。

赤髪赤眼で、黒いドレスからはみ出しそうな、磨き抜かれた豊満な体が揺れるだけで、魔界全種の魔族を振り向かせられる女。

うふふ、何ですか？

その曖昧な表情は。

まったく。礼儀がなってない方ね。

いいわ。しょうがないから、もつと凄いわたくしの事を教えて差し上げましょうか。

何と言ったって私は、数々の争いを勝ち抜き、やっと出会えた魔王様に“めすぶた”という人間界の言葉で褒められ、唯一、魔王様に会う事が許された女なんですの！！

勘違い女ブリュッセルと、彼女に振り回される小さな魔王様のお話。
超短編。

(前書き)

あらすじの、めすぶたは決して差別するために書いたわけではありません。ご了承ください。

「魔王さまぁー！起きてくださいましー！ブリュッセルが愛の目覚ましに来ましたわぁあん！」

木製の両開きドアを思いっきり押して、ベッドで目を擦る小さな黒髪の少年　魔王様に駆け寄る。これが、毎日忙しい魔王とわたくしの朝の習慣。

「うるせえんだよ、このメス豚がアアア！」

ベッドにダイブしようとした私を、魔王様は怒声を発しながら頭で受け止めてくださった。

ゴオンツという素敵な音はまさに結婚式のベルのよう。

いやん。自分で言っていて、なんと悶えるのでしょうか。

わたくしと魔王様が結婚……。うふん。このブリュッセル、幸せすぎて死にそうです。

「うわぁあぁっ！なんで頭突きしたのに鼻から血出してるんだ！？相変わらず意味が分からない！てゆうーか、近寄るなぁぁぁぁぁ！」

「まあ魔王様つたら。そんなに照れなくてもいいですよに。うぶな魔王様も大好きですわぁん！！さぁ、朝の挨拶として、わたくしを抱い「まずは鼻血を拭けや！！！」

わたくしの鼻血に照れて布団を乱し始めた魔王様。布団の端を2つ見つけるなり、前のめりになっているわたくしの鼻の穴に押し込んだ。いやん。いきなり押し込むだなんて過激。これが噂の“どえすきちく”なの？
思わずムラムラしてしまいますわぁん。

布を抑える魔王様の手にとつと触れようとしたその瞬間。

「大丈夫ですか！！魔王様ーっ！？」

「…！ラッセル。てめ遅えんだよ、一回死ね！」

突然の来訪者に、わたくしに押し込んでいた布団の端を床に投げ捨てて、笑顔になる魔王様。

ふぎゅ！いきなり抜くだなんてこれも…以下略。

というか！魔王様！

怒った顔も素敵ですけど、笑った顔も好きですわん！

…でも。それはわたくしに向けられたものじゃない。

魔王様の新しい発見に高ぶった気分も、すぐにどす黒いモノへと変わっていく。

魔王様の視線を追うと、灰色髪のラッセルがわたくしを睨んでいた。

別にラッセルごときに睨まることぐらい、正直どーでもいいんで

すの。

でも、いつもこうやってわたくしと魔王様の大切な逢い引きを邪魔するラッセルに、この誉高き悪魔のブリュッセルには堪えられませんがせんわ。

魔王様が命令されなくともわたくしが殺してさしあげますわ。

「ブリュッセル！」

ラッセルとの戦闘体制に入ろうとしたわたくしに、魔王様の怒声が浴びせられる。

「なっ、魔王様！ラッセルだって殺気という名の魔力を漂わしていただきますわ！」

おかしくはありませんの！何故私だけ！？
それに魔族は気に入らなければ戦闘が当たりでは…と思ったところで、体の自由が利かないことに気がついた。
手も足も、１ミリも動かせないなんて。
辛うじて、首から上は動かせるようだった。

…まさか。

はっとして部屋を眺めれば、ラッセルも硬直していて、濃厚な魔王様の魔力が部屋中を満たしていた。

「……………ブリュッセル、やめてくれ。」

魔王様の声変わりがまだの高い声が、静かな部屋に響いた。

「…はい。ごめんなさい魔王…さま……」

そこでわたくしの記憶はとぎれましたの。

ああん。なんて濃厚な魔力。さすが魔王様ですわん…。

(後書き)

明けましておめでとございます。

新年早々これを読まれたあなたにエールを！

ブリュッセルは、ちょっと太めな女性ということ。前書きにも書きましたが、決して差別するために書いたわけではありませんのでご了承ください。

魔界のこともよく分かんないのに、書きました。はい書きました。後悔はないです。文句は受けません。

ちなみに、ミニマム・サタンは日本から召喚された女の子です。発育が遅いため(ここ強調)、また口も悪いため(ここも強調)、魔界民たちからは、男の子だと勘違いされています。

という初期設定を生かしきれない私プライスレス。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1641ba/>

ミニマム・サタン

2012年1月4日03時46分発行